

流氷

冬になると、オホーツク海沿岸では流氷を見ることができます。網走地方気象台では、流氷初日と流氷接岸初日の観測を行ってきました。流氷初日は流氷が視界内の海面で初めて見られた日です。流氷接岸初日は流氷が接岸し、船舶が航行できなくなった最初の日です。昨年の流氷初日は2月15日で、1946年の統計開始以降、最も遅い観測となりました。

オホーツク海の海水域面積は、気温、風や海水温の変化による影響を強く受けるため、年ごとに大きく変動しています。昨冬の気温は、おおむね全域で平年より高く経過しました。また、北風や北西風が吹く冬型の気圧配置が長続きしなかったことから、オホーツク海南部への拡大が進まず、この影響で北海道オホーツク沿岸への流氷の到来が遅くなりました。

長期的な海水域面積をみると減少傾向にあり、統計的には10年あたりオホーツク海全面積の3.4%にあたる海水域が減少しています。温暖化と海水域面積の関係については、確かに、温暖化により地球全体として気温が上昇していること、北極域の海水が減少していることなどは観測で確かめられています。一方、南極域の海水面積は緩やかに増加しており、北極域でも全ての海域で海水面積が減少しているわけではありません。そのため、温暖化と海水域の減少を単純に結びつけることはできません。

気象庁ホームページの「海洋の健康診断表」の「海氷」のページでは、最大1か月先までの海氷の見通しや衛星画像など、海氷に関する様々なデータを提供しています。船舶の安全な航行や流氷観光など様々な場面でご活用ください。

問い合わせ先 網走地方気象台
(電話：0152-43-4349)



網走地方気象台ホームページ



気象庁ホームページ
「海氷に関する診断表、予報、データ」

地点	海氷シーズン	流氷初日	流氷接岸初日
網走	2024/2025年冬	2.15 (+24)	2.17 (+13)
	2023/2024年冬	1.19 (-3)	1.22 (-13)
	平年値	1.22	2.4
	最早	12.27 (2002)	1.8 (2001)
	最晩	2.15 (2025)	2.22 (2016)